

Design Management project

県デザイン経営塾 9「コンテンツ、情報、人のつながりかた」

富山県・富山大学芸術文化学部 連携事業

富山大学芸術文化学部准教授 有田 行男



開催主旨と概要

県デザイン経営塾は、富山県の地場産業を支える経営者や起業・新事業を考える方々を塾生に迎えて、デザイン経営力の醸成を推し進める、県と富山大学芸術文化学部の連携事業です。年度ごとのテーマに沿って、塾生の方々には、様々な観点からのデザインを学んで頂いております。

第9回目のテーマは、2015年3月の北陸新幹線開通を背景に「コンテンツ、情報、人のつながりかた」とさせて頂きました。短時間で首都圏との往来が可能な新しい交通網が整うことでコンテンツや情報、人の行き来が活性化します。首都圏のみならず、世界との距離も近くなります。その様な環境変化の中で、富山県が持つ様々なコンテンツを、どのような情報として、どう発信すれば良いのか、どのようにつないでいけば良いのかを、つながりかたのデザインとして、プログラムを組みました。

企画と組織

主催：富山県、富山大学芸術文化学部

プロデューサー：

武山良三（富山大学芸術文化学部）

実行委員長：

有田行男（富山大学芸術文化学部）

実行委員：

矢口忠憲（富山大学芸術文化学部）

竹腰貢三子（富山大学芸術文化学部総務課）

安田慎一（富山県商工労働部商工企画課）

高山枝里子（富山県商工労働部商工企画課）

※所属部署、担当は実施当時のもの

プログラムとスケジュール

参加頂く塾生の方々のつながりを意図し、経営塾への参加を起点に交流ができるだけ広範囲に広がっていくことを期待しつつ、塾生については呉西エリア（富山県西エリア=高岡市、氷見市、射水市、砺波市、南砺市、小矢部市）の各市から16名の方々に参加して頂きました。開催場所についても呉西エリアの魅力ある商業施設を会場とさせ

て頂き、会場や周辺地区でのサーベイを通して様々なつながりかたのデザインを学ぶことができました。

また、各セッションの講師については、つながりかたのデザインを実践されている経営者の方々を迎え、呉西エリアの魅力ある会場と関連するセッションテーマにて講話を頂きました。

1. コンテンツと情報のつながりかた～南砺～

日本の「もの」「こと」「場所」「人」を紹介する情報誌「Discover Japan」の統括編集長である高橋俊宏氏を講師に迎え、コンテンツと情報のつながりかたをセッションテーマに、高橋氏が取材した全国各地での事例や、富山への思いを語って頂きました。

南砺市にある五箇山（平村）の和紙は八尾町、朝日町とともに越中和紙として称されます。越中和紙は楮（コウゾ）の強靱な繊維によって丈夫さを生み出しますが、五箇山和紙の里では、今でも楮を自家栽培するところから生産を行っています。手漉きの工房と、大きな受注にも応えられる機械漉きの設備を併せ持つ富山県内唯一の和紙工房「五箇山和紙の里」を会場としました。ワークショップでは塾生間のつながりを深めるために和紙作りを体験しました。

（2014年9月19日 於 南砺市 五箇山和紙の里）

2. まちづくりのつながりかた～高岡～

過疎集落の復興という日本が抱える大きな課題に対応した事で、多くのメディアから注目されているNPOグリーンバレーの理事長である大南信也氏を講師に迎え、神山町の事例とともに、地域の維持と継承について講話を頂きました。NPOグリーンバレーは徳島県名西郡神山町への移住支援や空き家再生、アーティストの滞在支援などを手掛け、2011年の人口動態調査において転入者が転出者を上回るという大きな変革を成し遂げています。

高岡市山町筋には古い土蔵づくりの建造物が残っており、会場とさせて頂いたHAN BUN KOさんも山町筋に店を構えています。高岡の職人と職人、職人とお客様をつなげるのがコンセプトとのこと。デザインサーベ



では山町筋でのまち歩きを行い、歴史あるまちと新しい時代の融合、これからのまちづくりを魅力あるものとする、つなぎかたを学ぶ場としました。

(2014年9月25日 於 高岡市 HAN BUN KO)

3. 1次、2次、3次産業のつなぎかた～氷見～

2003年に東京で生まれた家電ブランド「amadana」の代表取締役である熊本浩志氏を講師に迎え、デザインを有効的に活用する「amadana」のブランドビジョンとともに、熊本浩志氏が企業経営の傍らプロデュースするかき氷ブランド「milk & honey」について講話を頂きました。「milk & honey」は、馴染みある夏の風物詩「かき氷」を「大人のための究極のかき氷」として置き換え、2013年夏の飲食業界に「大人向けかき氷」ブームをもたらすきっかけとなりました。このプロジェクトを紐解くと、熊本浩志氏の故郷である宮崎の特産品、マンゴーの出荷傍らで廃棄されている素材を有効に活用できないかという地域の課題解決から始まっており、1次と2次、3次産業をつなぐ秀逸なビジネスモデルでもありました。

会場であるワイナリー&レストランSAYS FARMは氷見市の丘の上に位置し、富山湾越しに立山連峰が見渡せます。葡萄畑は氷見の漁師が漁の合間をぬって開墾したものであり、ドメヌとして拘りあるワインを生産しています。氷見の漁師が釣った「氷見のサカナ」に合う、氷見の漁師が育てた「氷見のワイン」を味わえるSAYS FARMもまた1次と2次、3次産業をつなげたデザインの実施事例でもあります。

(2014年10月24日 於 氷見市 SAYS FARM)

4. カフェを通じた人のつなぎかた～射水～

「カフェはメディアである」という考え方で、カフェの収益よりもプロモーションの収益の方が多しビジネスモデルを手掛けたニシノホールディングス代表取締役 西野太郎氏を講師に迎え、人のつなぎかたをテーマに、観光資源としてのカフェの意味合いや人のつながりの場となるカフェの在り方について講話を頂きました。旅をテーマに様々なクライアントと協業する「トラベル

カフェ」や設備メーカーのショールームとしての機能を持つ「アーキテクトカフェ」など、カフェビジネスで新しい業態を開発する西野太郎氏が地域づくりにおけるカフェのお手本として注目されていたのが会場とさせて頂いたcafe uchikawa六角堂でした。

古くは畳屋であった外観が残る六角堂は射水市内川の景観に馴染み、ゆったりとした時間に包まれています。朝の時間帯は近隣にお住まいの方々の憩いの場として、昼間は射水で働く方々のランチとリフレッシュの場として、夕刻は学びの場として、地域の人々をつなぐカフェでした。

(2014年11月21日 於 射水市 cafe uchikawa六角堂)

5. ワークショップのまとめ～砺波～

参加頂いた塾生の方々には、各セッションを経て「富山のコンテンツを活かした2020年のビジネスモデル」に取り組んで頂きました。そして最終日には、富山県を代表する酒蔵のひとつである若鶴酒造 大正蔵（砺波市）にて、計4グループによるプレゼンテーションを実施頂きました。

(2014年12月5日 於 砺波市 若鶴酒造 大正蔵)

Aグループが提案したビジネスモデル

「6 city and 7 days」

…呉西地区の6市を7日間かけて周遊、呉西地区の魅力ある体験をデザインした旅事業。

Bグループが提案したビジネスモデル

「呉西地区を日本の西海岸に」

…インターンシップを契機として海外の優秀な人材の誘致を行なうプラットフォーム事業。

Cグループが提案したビジネスモデル

「感好するとやま」

…大人の知的好奇心をくすぐる「とやまの循環」をテーマとした旅事業。

Dグループが提案したビジネスモデル

「富山の食と職を海外につなぐ」

…和食に興味を持つ海外のシェフへ向けた富山の食文化と職人のプロモーション事業。